

おじいさん：アサマフウロは、日本でも長野県、群馬県、山梨県などの限られた場所にしか咲かない貴重な花だそうだ。わしも、久しぶりに見たな、昔を思い出すな。昔は、町のどこにでもたくさん咲いていたのになー。

ワレモ君：えーっ！そうなの、お友達にも見せたいな。東京のいとこのジュちゃんたちにも見せたいな。

おばあさん：ここは、去年、キャベツやレタスを作るためにたくさん土を入れる計画があったんだけど、アサマフウロを遺したいって思う人たちが声をあげて、町にお願いして、計画を変更して、土地を町で借りてもらって、つぶされないで済んだのよ。

ワレモ君：へー！よかったね。キャベツやレタスも大切だけど、もうなくなってしまいそうな花を大切にできて良かったね。

軽井沢って、いい町なんだね。



レンリソウ
湿った草地に生える
マメ科の植物



アサマフウロ群落
分布が限られ研究が進んでいない(2021年)



オグルマ
「こんな沢山咲いているの、初めて見た」(長野県環境保全研究所O研究員)



ミズチドリ
2004年頃、ここにはこんな素晴らしい群落が！

紙 上 対 談



子どもたちの食を通じて環境を考える

上原友香さん × 須永 久さん

軽井沢オーガニック給食を考える会代表

軽井沢サクラソウ会議代表

今回は、上原さんと須永さんに、「軽井沢オーガニック給食を考える会」の設立について対談していただきました。同じ町に暮らす者同士、協力できることを考えていきたいと思えます。

実は上原さんと須永さんは、初対面ではなかった。上原さんが幼稚園に通っていた時（約30年前）、須永さんのお子さんも同じ幼稚園に通っていました。須永さんは園の行事のたびに子供たちのためのワタアメ屋さんで活躍。だから、上原さんにとっては、「須永さんは、ワタアメおじさん！でした。」逆に須永さんは、2021年6月町議会に、赤ちゃんを連れのお母さんが傍聴に来ていて、（いつも、傍聴者はご年配の方が多いので）「新鮮な驚きで、すごいなー、熱心だなー」と思っていました。そのお母さんが上原さん！

上原：「オーガニック給食を考える会」は、2021年4月から発足した会です。きっかけは、1年ほど前、オーガニックなどに詳しい友達に全国無農薬給食の会・長野支部長の和田亨さんを紹介されたことです。和田さんは、『給食で死ぬ!!一いじめ・非行・暴力が給食を変えたらなくなり、優秀校になった長野・真田町の奇跡!!』を書いた大塚貢元校長先生の経験に感銘を受け活動されています。その和田さんと2月に行ったオンラインお話し会を皮切りに、軽井沢町内の生活クラブ生協（食品添加物や遺伝子組み換え食品、農薬使用量に配慮した独自基準を持つ生協）での食の安心安全を考える身近な仲間の横の繋がりも活動開始の後押しになりました。現在会員は、約137名、LINEやFACEBOOKで連絡を取り合っています。

上原：一緒に来たこの子（次男）が、ネコの毛や乳製品のアレルギー体質と重度のアトピーで困っていたのです。皮膚科へ相談するとステロイド剤を使うように言われましたが、薬やサプリメントではなく、根本的に直したいと思い、お薬に頼りすぎず、食生活や環境をよくしていきたいと考えるようになりました。近年のアレルギーっ子の増加や、無農薬給食の会の活動などを知り、自分の子ども達だけでなく、これからの世界を生きる子ども達はみんな元気に育ててほしいという気持ちで、軽井沢でも活動をスタートしたいと思いました。オーガニック給食を考える会ですが、農産物に関しては有機農産物にこだわらず、減農薬や特別栽培なども推進していきたいと思っています。

須永：「身土不二」だったっけ、身近なところ

で育ったものを食べる方がいいという考え方で
すよね。SDGsとか、フードマイレージとかと
通じるものがありますね。今の日本は、地球の
裏側からも食料を買っています。地中海で育っ
たマグロを飛行機で運んで東京の市場で売っ
ている状況は考えさせられますよね。

上原：地球の裏側から持ってきているのに安
いっていうのも逆に怖いですよね。「軽井沢の子
ども達の有機給食実現」に向けた署名活動を、



須永 久さん

この9月末に目標
500筆で始めまし
た。2ヶ月で2947
名の署名が集まり
ました。半数は町
内の方、半数は町
外の方で、軽井沢
に注目されている
人がいかに多いか
と解かり、ビック

リと同時に、軽井沢の子ども達の育ちに心を寄
せていただいた事を大変うれしく思っています。

コロナ禍で、ストレスを受けている成長過程の
子供たちの心と身体のためにも、有機農産物を使
う、無添加の自然な調味料を使う、加工品を極力
使わず手作りする、旬のレシピを取り入れるなど、
より安心安全な給食を実現してほしい、そのた
めに必要な人材を確保し、税金を使ってほし
いと思っています。

「国も『オーガニックビレッジ』を全国から
100市町村募集していますから、軽井沢町も手
を挙げてほしい、1品目からでもいいから」と、
11月19日に藤巻町長にお願いしました。有機
農産物などが軽井沢で買えるということになれば、
軽井沢ブランドを向上させ、環境保全にも
繋がるのではないかとお話ししました。

須永：6月の町議会一般質問では、町内で有機農
業を行っている業者は極めて少ないので、給食
に取り入れることは困難だというのが町の答え
でしたね。

青森で、「奇跡のリンゴ」の木村秋則さんの隣
で無農薬無肥料のリンゴを作っている知り合い
（「杉山自然栽培研究農園」）がいるけれど、
夏の30度を超える暑さの中で害虫駆除の手作
業に1週間かかったと聞きました。無農薬や減
農薬、有機栽培というのは、労力のかかる大変

な作業なんでしょうね。

上原：私たちはまだまだ勉強中ですが、有機農
家さんに限らず農家の皆さんは本当に想像以上
のご苦勞をされていると聞きます。軽井沢には、
たくさんのレストランなどがあるから、有機農産
物や特別栽培農産物を町内で流通させることが
出来れば、長い目で見て地域経済にもプラスに
なるのでは。農家さんと協議する場もぜひ創っ
ていきたいですね。

須永：農家の皆さんと話し合うような機会が持
てればいいですね。いろいろな立場の人とつな
がっていくことが大切だよな。

上原：先日大賀ホールで行われた「軽井沢22世
紀風土フォーラム」でも、高校生が発言してい
ましたね。異年齢の人たちとの交流ができると
いいですね。軽井沢町には多種多様な才能あふ
れる方がいらっしゃる。ぜひ『人や環境』とい
うかけがえのない財産を大切に考えていただき
たいです。

須永：子育て世代の移住者が増えるなど、軽井
沢町を取り巻く大きな流れが変わってきている
と感じています。町の中で、色々な人が問題を
話し合えるような「場」であったり情報交換の
「場」があるといいですね。毎月第三木曜日の2
時から3時まで発地市庭で開催している「情報市
庭」も活かしていきたいですね。

軽井沢サクラソ
ウ会議は、広大な
農地整備事業計画
地（17.6ヘクター
ル）の片隅（0.55
ヘクタール）にあ
るアサマフウロの
群生地を「自然生
態園」として保全
してほしいという
請願を12月町議会
に出しました。未
来を担う子供たち



上原友香さんと二人のお子さん

のためにも、軽井沢の本来の自然の姿を残して
あげたいという思いは上原さんたちの活動とも
つながっています。何年も前から要望のあった
「環境基本計画」も策定されることになったし、
これからの軽井沢町の歩みに期待したいですね。

本日はありがとうございます。

連載 エコロジーを意識した庭づくり ④



冬越しの準備

葉がすっかり落ちきって、季節は冬。今回は私たちが通常行っている冬越しの準備作業についてお話しします。



バーク堆肥でマルチングした後の様子。スッキリきれいに見えます

整然ときれいに見せたい花壇の場合、通常草花は地際から切り戻します。(ススキなどのグラスを除く) 地上部をスッキリさせたあとは、バーク堆肥でマルチング。

バーク堆肥とは樹の皮の堆肥で、この散布により土の温度の上下が緩やかになり、乾燥を防ぎ、雑草防止や微生物の環境づくりに役立ち、見た目もきれいです。いわば植物のお

ふとんのようなイメージで、自分ですき込まなくても、微生物が活躍してくれるので、春には土のフカフカ度が増していますよ。

Nature Gardenでは草花を切り戻しせず春までそのままにしたり、下から15cmくらいでカットして、上部はそのまま植物の周りに敷いて種を落としてあげます。落ち葉はマルチングのため残しますが、量が多すぎると道やご近所の敷地に飛んだり、種が発芽しにくくなることもあるので、適度に取り除いて木の周りに集めたり、庭の端に寄せたり、全体に薄く撒きます。野草を中心に植栽しているということもありますが、肥料を与えなくても、この自然なマルチングや堆肥散布で植物は毎年元気に育ってくれます。

庭が雑草だらけで困っている！という方へ。

段ボール(テープなどは全て取り除く)を広げて敷き、水をかけて、その上に落ち葉や堆肥を敷くと、雑草防止により効果的。1ヶ月くらい置いたらダンボールも溶けて、春か秋にはその上から植栽も可能です。これは英国出身の園芸家の先生から教わった方法で、費用をかけずに自然な手抜き管理をしたい方におすすめです。

[なかまきこ (Studio Kyoryu)]

編集部から

訂正してお詫びいたします。

■前号(vol.120) 6ページに掲載しましたコラムのキタキチョウ写真に誤りがありました。

越冬中のキタキチョウは葉の上に止まることはなく、左の写真は越冬体勢として不自然なポーズと位置になってしまっていました。正しくは右の写真です。訂正してお詫びいたします。



誤り(前号に掲載したキタキチョウ)



正しくはこちらです

【発行】軽井沢サクラソウ会議 事務局
ホームページ <https://sakuraso.org>

※郵便物などの送付先はTELまたはメールにてお問い合わせください。
連絡先 / TEL 090-4025-6729 メール info@sakuraso.org